

学習実態調査と学習到達状況調査との関連についての分析・考察

1 基本的な考え方

学習実態調査と学習到達状況調査との結果から，学習実態と各教科の平均通過率との間に関連があるかどうか統計分析を行った。

分析・考察に当たっては，「教科の関心・意欲・態度」，「生活体験等」，「学びに向かう力」，「自己学習力」，「自己コントロール」，「その他」の6領域に分けて行うこととし，各項目について，「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した「肯定群」と，「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」と回答した「否定群」とに分け，二群の各教科の平均通過率を比較した。

学習実態調査については調査対象学校(学級)の生徒全員が受検しているが，学習到達状況調査については，各校5教科中3教科を受検しているため，以下に示す表における「割合(%)」及び各教科の「平均通過率(%)」の数値を算出するための母集団(調査対象生徒数)は同一ではない。このことを踏まえた上で，調査結果の概略をつかめるよう以下のような表にあらわした。

2 分析・考察

以下，基本的な考え方に基づき，各領域別に分析・考察を行った。

(1) 教科の関心・意欲・態度

教科の関心・意欲・態度にかかわる項目の中で，教科の勉強の好き嫌いとは各教科の平均通過率との関連を調べた。

表1 教科の勉強の好き嫌いとは各教科の平均通過率

設問番号	設 問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。 【国語】	肯定群	56.3	77.2	52.9	59.2	63.8	60.8
		否定群	43.4	71.9	51.7	63.6	64.4	61.2
		検 定		**	-	**	-	-
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。 【社会】	肯定群	51.8	77.0	57.9	63.6	67.7	62.6
		否定群	47.9	72.5	46.5	58.4	60.4	59.3
		検 定		**	**	**	**	**
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。 【数学】	肯定群	49.1	76.1	55.3	70.8	68.5	64.4
		否定群	50.6	73.9	49.4	52.1	59.7	57.6
		検 定		**	**	**	**	**
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。 【理科】	肯定群	61.9	75.6	55.0	64.3	68.7	61.5
		否定群	37.8	73.9	47.9	56.0	56.6	60.1
		検 定		*	**	**	**	-
問9	あなたは，次の教科などの勉強がどれくらい好きですか。 【英語】	肯定群	53.0	79.1	55.6	67.9	67.6	69.3
		否定群	46.7	70.5	48.5	53.5	60.1	51.2
		検 定		**	**	**	**	**

検定に際しては，肯定群及び否定群の平均通過率の差をt検定(母平均の差の検定)により算出した。

**：1%有意を表している。1%有意とは平均通過率の差異が偶然発生する確率が1%未満であること。

*：5%有意を表している。5%有意とは平均通過率の差異が偶然発生する確率が5%未満であること。

表中の網かけ部分は，平均通過率が高い方の群を示している。

表1から、国語の好きな生徒は、国語の平均通過率が高く、以下の教科についても同様のことがみうけられる。ただし、国語においては、数学などの平均通過率について否定群の生徒の平均通過率が肯定群の平均通過率を上回るといった結果がみられるが、相互の関連については、今後、詳しく検討していきたい。

(2) 「学びの基礎力」について

本実態調査においても小学5年生対象の調査と同様に「生活体験等」、「学びに向かう力」、「自己学習力」及び「自己コントロール」をまとめて「学びの基礎力」ととらえた。表2は該当する48項目について、それぞれの肯定群と否定群の各教科の平均通過率を比較し、「肯定群 > 否定群」及び「否定群 > 肯定群」となった項目数を示している。

表2 「学びの基礎力」についての比較

	国語	社会	数学	理科	英語
肯定群 > 否定群	41	43	44	43	45
否定群 > 肯定群	7	5	4	5	3
合計設問数	48	48	48	48	48

この表から、学びの基礎力について肯定的な回答をしている生徒の方が、どの教科においても平均通過率が高くなる傾向が見られる。

また、次の表3は「学びの基礎力」の4領域における各教科の平均通過率への影響度を示している。小学校での調査結果と同様に、「学びに向かう力」が各教科の平均通過率に対して大きく影響しているとともに、中学校段階では「自己学習力」あるいは「自己コントロール」についても学習の状況に強く影響している傾向がうかがわれる。

つまり、教科の学力向上を図るには、教科内容の指導とともに、学びの基礎力として位置付けた領域の内容全般について改善を図ることが重要であると考えられる。

表3 4領域別の各教科の平均通過率への影響度

		生活体験等	学びに向かう力	自己学習力	自己コントロール
大きい	5教科すべてに有意差()が認められる項目	7(8)	11(9)	8(3)	5(3)
やや大きい	3~4教科に有意差が認められる項目	5(3)	3(3)	2(4)	1(2)
やや小さい	1~2教科に有意差が認められる項目	3(3)	0(1)	1(3)	1(1)
小さい	どの教科にも有意差が認められない項目	1(3)	0(0)	0(2)	0(1)
設問数		16(17)	14(13)	11(12)	7(7)

有意差：肯定群及び否定群の平均通過率の差をt検定により判定し、5%水準で有意なものを有意差が認められるものとした。

()内の数字は14年度の県の小学校の調査結果

以下、(3)以降は、5教科すべてに肯定群と否定群との平均通過率に有意差が認められる項目についての分析を行っている。

(3) 「生活体験等」に関する質問と各教科の平均通過率との関連

表4 「生活体験等」と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問1	地域の活動や行事に参加する。	肯定群	54.6	75.6	54.0	62.6	65.6	62.2
		否定群	45.4	74.2	50.3	59.3	62.3	59.6
		検定		*	**	**	**	**
問1	新聞のニュース記事を読む。	肯定群	49.0	76.0	55.4	63.2	65.8	62.9
		否定群	50.9	73.9	49.2	59.2	62.5	59.2
		検定		**	**	**	**	**
問1	インターネットを使って何かを調べる。	肯定群	63.0	76.8	54.9	63.1	66.9	63.5
		否定群	36.9	71.9	47.7	57.7	59.5	56.6
		検定		**	**	**	**	**
問3	自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる。	肯定群	87.2	75.2	52.6	61.7	64.6	61.9
		否定群	12.7	73.1	50.4	57.2	61.0	54.6
		検定		*	*	**	**	**
問3	家族は自分のことを気にかけてくれていると思う。	肯定群	86.6	75.6	53.2	61.9	64.9	61.8
		否定群	13.4	70.1	46.7	56.2	59.0	55.7
		検定		**	**	**	**	**
問3	学校のできごとなどを自分から家族に話す。	肯定群	63.8	76.7	53.3	63.3	65.4	63.4
		否定群	36.2	71.6	50.5	57.4	61.9	56.7
		検定		**	**	**	**	**
問3	朝食は毎日食べている。	肯定群	90.0	75.9	53.4	62.9	65.6	62.3
		否定群	10.0	66.1	42.5	45.2	50.7	48.7
		検定		**	**	**	**	**

平成14年度の小学校での調査結果と同様に、「地域の活動や行事に参加する」という項目のように社会体験を豊富にもっている生徒、あるいは「新聞のニュース記事を読む」、「インターネットを使って何かを調べる」の項目のように、情報の豊富なメディアを活用している生徒の方が各教科の平均通過率が高く、豊富な体験活動、メディア活用が学習に良い影響を与えていることがうかがえる。

今後の取組としては、学校と家庭・地域が連携して生徒が地域の活動や行事などの体験活動に積極的に参加するようさらに働きかけること、また、積極的にITを取り入れた授業を行うなどして、各種メディアの活用について興味・関心をはぐくむよう指導することが大切である。

また、「自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる」、「家族は自分のことを気にかけてくれていると思う」、「学校のできごとなどを自分から家族に話す」という項目の肯定群の生徒の平均通過率が高いことから、他者との支え合いから得られる自尊感情あるいは他者への思いやりが、学習面での向上心や学習意欲につながっていると思われる。

逆に、これらの項目に否定的な回答をした生徒は、自己肯定感が得られる場面が少なかったり、学習への向上意欲をもちにくくなっている可能性もあるので、様々な場面で自己肯定感や自尊感情を育むことを意識して指導するとともに、学校、家庭での生活の様子などのきめ細かい観察や指導、保護者への働きかけなどに一層配慮するこ

とが大切である。

基本的な生活習慣に関する項目である「朝食は毎日食べている」については、小学校の結果と同様に、肯定群と否定群との平均通過率の差が他の項目と比較して大きい。朝食の摂取は、規則正しい生活を送るための第一歩であるとともに、学習を支える大切な要素とも考えられ、生徒、保護者へのさらなる働きかけが望まれる。

表5 読書体験と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	平均通過率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
問2	あなたは、この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか？(参考書や教科書、教科の学習に関係のないマンガや雑誌は、のぞきます。)	3冊以上の群	76.9	56.3	64.1	67.5	63.6
		2冊以下の群	74.2	50.9	60.1	62.8	60.0
		検 定	**	**	**	**	**

表5は、読書体験と各教科の平均通過率の関連を示しており、1か月の読書冊数が3冊以上の群と2冊以下の群の平均通過率の差において、全ての教科で有意差が認められた。小学校5年生対象の調査では、調査対象の4教科中、国語、理科の2教科にのみ有意差が認められたという点を考慮すると、中学校における読書体験と学習との関連は、小学校と比較してより強いと考えられる。

(4)「学びに向かう力」に関する質問と各教科の平均通過率との関連

表6 「学びに向かう力」と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問3	ふだんから「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じる人が多い。	肯定群	62.2	76.5	54.7	63.2	66.6	63.1
		否定群	37.8	72.5	48.4	57.7	59.9	57.4
		検 定		**	**	**	**	**
問3	本を読んだり、ドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある。	肯定群	74.6	76.6	53.4	62.7	65.2	63.2
		否定群	25.4	69.8	49.1	56.4	61.0	54.5
		検 定		**	**	**	**	**
問3	自分はやればできると思う。	肯定群	76.6	75.8	53.8	63.0	65.6	62.5
		否定群	23.4	72.1	47.3	55.5	59.1	56.0
		検 定		**	**	**	**	**
問3	努力をして最後までやりとげた経験が多い。	肯定群	57.1	76.6	55.3	64.8	66.8	63.6
		否定群	42.8	72.6	48.3	56.4	60.5	57.6
		検 定		**	**	**	**	**
問4	勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある。	肯定群	32.2	78.6	58.1	70.0	71.2	66.6
		否定群	67.7	73.2	49.5	56.9	60.8	58.4
		検 定		**	**	**	**	**
問4	同じまちがいをくり返さないように気をつけている。	肯定群	71.7	76.1	54.6	64.7	66.4	63.3
		否定群	28.2	72.0	46.4	52.7	57.9	55.0
		検 定		**	**	**	**	**
問4	勉強すれば、自分のふだんの生活や社会に出て役に立つと思う。	肯定群	71.8	76.0	54.2	63.8	65.9	62.7
		否定群	28.1	72.0	47.7	54.5	59.3	56.9
		検 定		**	**	**	**	**

問4	勉強して何かが分かるようになることはうれしいと思う。	肯定群	85.0	75.7	53.0	62.4	65.0	61.8
		否定群	14.9	70.4	48.6	54.0	59.3	56.1
		検 定		**	**	**	**	**
問4	勉強をしてもっと力や自信をつけたいと思う。	肯定群	79.8	75.9	53.3	62.8	65.3	62.1
		否定群	20.1	71.0	48.5	54.6	59.5	56.3
		検 定		**	**	**	**	**
問4	友だちに負けないようにがんばって勉強したいと思う。	肯定群	71.6	76.0	53.4	64.1	65.7	62.7
		否定群	28.4	72.3	49.5	53.6	59.9	56.8
		検 定		**	**	**	**	**
問4	良い成績をとれるよう、勉強したいと思う。	肯定群	83.1	75.9	53.0	63.2	65.2	62.2
		否定群	16.8	70.0	49.0	50.9	58.8	54.9
		検 定		**	**	**	**	**

「ふだんから『ふしぎだな』『なぜだろう』と感ずることが多い」「本を読んだり、ドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある」「勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある」という項目から、さまざまな事物に対して、あるいは具体的な体験を通して感動したり驚いたりする豊かな感性は、学習にもよい影響を与えるものと考えられる。ただし、「勉強することがおもしろい、楽しい」と思う生徒の割合が32.2%と低いので、今後はさらに知的好奇心や探求心を育むとともに、生徒が「勉強がおもしろい、楽しい」と思えるような興味・関心を大切に学習、また「分かった」と実感できるような指導の工夫改善に取り組む必要がある。

学習の動機づけにかかわる「勉強すれば、自分のふだんの生活や社会に出て役に立つと思う」「勉強して何かが分かるようになることはうれしいと思う」「勉強をしてもっと力や自信をつけたいと思う」「友だちに負けないようにがんばって勉強したいと思う」「良い成績をとれるよう、勉強したいと思う」という項目では、すべての教科において肯定群の平均通過率が高くなっており、学習との関連がうかがえる。また、どの項目においても肯定群の割合は比較的高くなっており、生徒のもっている学習に対する前向きな姿勢を持続させるような魅力ある授業づくりに、さらに積極的に取り組むことが求められる。

また、「自分はやればできると思う」「努力をして最後までやりとげた経験が多い」「同じまちがいをくり返さないように気をつけている」という項目においても肯定群の平均通過率は高くなっており、自分に自信をもって学習に継続的に取り組むことが学習に好影響を与えていると考えられる。ただ、「努力をして最後までやりとげた経験が多い」生徒の割合は57.1%と若干低く、今後、努力した後に得られる達成感を生徒に体感させることができるような取り組みが必要と考えられる。

(5) 「自己学習力」に関する質問と各教科の平均通過率との関連

表7 「自己学習力」と各教科の平均通過率

設問番号	設 問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問5	ふだんから計画を立てて勉強している。	肯定群	15.6	77.1	56.2	68.8	69.7	65.7
		否定群	84.3	74.6	51.6	59.7	63.1	60.0
		検 定		**	**	**	**	**

問6	黒板に書かれなくても、大事なことや気づいたことはノートに書きとめている。	肯定群	48.3	77.4	55.7	65.1	66.9	64.5
		否定群	51.6	72.6	49.0	57.5	61.5	57.5
		検 定		**	**	**	**	**
問6	図表や記号を使うなど、工夫してノートを整理している。	肯定群	54.7	76.7	54.6	63.4	65.8	63.6
		否定群	45.2	72.8	49.7	58.4	62.0	57.8
		検 定		**	**	**	**	**
問6	新しく習った漢字や計算は何度もくり返し練習している。	肯定群	27.2	77.0	54.3	67.3	66.5	64.9
		否定群	72.7	74.2	51.6	58.9	63.2	59.5
		検 定		**	*	**	**	**
問6	テストでまちがった問題は、やり直している。	肯定群	40.5	78.4	57.2	68.8	70.0	66.8
		否定群	59.4	72.6	48.8	55.6	60.3	57.1
		検 定		**	**	**	**	**
問6	宿題はきちんとやっている。	肯定群	73.3	77.3	55.5	66.1	67.7	64.8
		否定群	26.6	68.5	43.6	46.9	54.7	49.7
		検 定		**	**	**	**	**
問6	家族に言われなくても、自分から進んで勉強している。	肯定群	46.0	78.3	57.0	68.0	69.3	65.5
		否定群	53.9	72.2	48.1	55.1	59.8	57.1
		検 定		**	**	**	**	**
問6	授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解している。	肯定群	39.4	80.2	60.2	71.8	72.7	68.3
		否定群	60.5	71.5	47.2	54.5	58.4	56.2
		検 定		**	**	**	**	**

「自己学習力」の項目について、どの教科においても肯定群と否定群に有意差があり、肯定群の平均通過率が否定群のそれを大きく上回っているが、それぞれの項目の肯定群と否定群の割合についていくつか留意すべき点がある。

まず、「ふだんから計画を立てて勉強している」の項目で、肯定群の割合が 15.6% とかなり低い。昨年度の小学校の調査においてもこの項目については 39.2% という割合を示したが、中学校では、さらに、自分で計画を立てて学習する生徒が減少している。学習の定着にかかわる項目の「新しく習った漢字や計算は何度もくり返し練習している」「テストでまちがった問題は、やり直している」「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解している」における肯定群の割合もそれぞれ 27.2%、40.5%、39.4% とやや低い割合である。

また、自宅での学習習慣にかかわる項目で「宿題はきちんとやっている」の肯定群の割合は 73.3% と比較的高く、「家族に言われなくても、自分から進んで勉強している」の割合も 46.0% であるのに対し、「授業で習ったことは、その日のうちに復習している」の肯定群の割合は 12.8%（資料 p.60 参照）とかなり低くなっている。

今後、生徒が自ら進んで学習の計画を立てて、計画的にものごとにかかわろうとするような能動的な学習態度を育成していくために、生徒が課題づくりや学習計画づくりに主体的にかかわるような活動を一層工夫するとともに、学習の定着を図るための活動についても主体的に取り組むよう働きかけることが大切である。

(6) 「自己コントロール」に関する質問と各教科の平均通過率との関連

表8 「自己コントロール」と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問3	人の話は最後まで、きちんと聞くようにしている。	肯定群	71.7	76.5	54.1	63.5	66.4	63.0
		否定群	28.2	71.1	47.7	55.3	58.3	55.7
		検定		**	**	**	**	**
問3	相手の目を見て、はっきりと話すようにしている。	肯定群	55.2	76.8	54.4	63.1	65.9	64.0
		否定群	44.8	72.5	49.8	58.8	61.9	57.3
		検定		**	**	**	**	**
問5	分からないことはそのままにせず、分かるまでがんばっている。	肯定群	49.3	77.9	56.9	70.5	69.3	66.4
		否定群	50.6	72.0	47.9	52.4	59.0	55.6
		検定		**	**	**	**	**
問5	勉強するときはしっかり勉強し、遊ぶときはしっかり遊んでいる。	肯定群	58.9	76.7	54.4	64.9	66.4	63.6
		否定群	41.0	72.3	49.3	55.9	60.9	57.1
		検定		**	**	**	**	**
問5	勉強に集中していて、いつのまにか時間がたっていることがある。	肯定群	56.6	77.0	54.7	65.0	67.1	63.7
		否定群	43.3	72.2	49.1	55.9	60.3	57.4
		検定		**	**	**	**	**

「自己コントロール」にかかわるすべての項目において肯定群の平均通過率が高く、学習への関連がうかがわれる。特に「人の話は最後まできちんと聞くようにしている」生徒の割合は高く、多くの生徒が真摯な姿勢をもって授業に臨んでいると考えられる。

しかしながら、「分からないことはそのままにせず、分かるまでがんばっている」生徒の割合が他の項目と比べると若干低いという結果も出ており、今後、生徒の学習に対する積極的な姿勢を大切にしつつ、分からないことについても粘り強く取り組めるような学習を継続する力の育成が求められる。

表9 「授業で分からないことがあるときの対応」と各教科の平均通過率

設問	回答 【 】内は各項目を選択した児童の割合	平均通過率(%)				
		国語	社会	数学	理科	英語
問7(2) 授業の中で分からなかったことがあったら、どうすることが多いですか。 (複数回答)	先生にたずねる 【41.9】	77.2	55.0	64.9	66.6	63.5
	友だちにたずねる 【72.9】	75.5	53.4	62.5	65.0	62.0
	家族の人にたずねる 【46.9】	76.7	54.1	64.6	65.8	63.9
	塾や家庭教師の先生にたずねる 【38.4】	75.6	51.9	63.9	64.6	63.9
	自分で調べる 【55.2】	77.3	56.8	66.7	68.4	64.2
	そのままにしておく 【23.3】	69.7	44.4	49.3	56.4	54.0

表9では、分からないことを尋ねたり調べたりすると答えた群が、「そのままにしておく」と答えた群より、どの教科の平均通過率も上回っている。解決する方法についてみると、「自分で調べる」と答えた群の平均通過率が、もっとも高い傾向がみられる。

一方、分からないことを「そのままにしておく」生徒が23.3%いることから、分からないことは先生に尋ねたり、自分で調べたりして学習を進めていくことができるよう、進んで学習に取り組もうとする態度を育てる授業の工夫が大切である。

(7) その他の質問と各教科の平均通過率との関連

社会的実践力や豊かな心等に関する質問と各教科の平均通過率との関連

表10 社会的実践力や豊かな心等に関する項目と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問8	自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる。	肯定群	41.0	77.5	55.5	64.5	67.8	64.5
		否定群	58.9	73.2	50.0	58.8	61.6	58.5
		検定		**	**	**	**	**
問8	自分の見方だけでなく、異なる立場の意見も尊重している。	肯定群	56.0	77.8	55.5	64.5	68.6	64.2
		否定群	43.8	71.3	48.4	56.9	58.4	56.8
		検定		**	**	**	**	**
問8	いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている。	肯定群	46.7	76.1	53.8	63.0	66.3	62.7
		否定群	53.2	73.9	51.0	59.5	62.2	59.5
		検定		**	**	**	**	**
問8	自分がやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる。	肯定群	75.3	76.5	54.8	64.6	66.8	63.4
		否定群	24.6	69.9	44.7	51.2	55.9	53.8
		検定		**	**	**	**	**
問8	自分はまわりの人から認められていると思う。	肯定群	37.0	78.1	56.4	67.6	68.8	66.2
		否定群	62.7	73.0	49.9	57.5	61.3	58.0
		検定		**	**	**	**	**
問8	自分の能力をできるだけ伸ばしたいと思う。	肯定群	90.0	75.8	53.2	62.4	65.5	62.1
		否定群	9.8	66.5	44.1	49.6	52.6	51.6
		検定		**	**	**	**	**

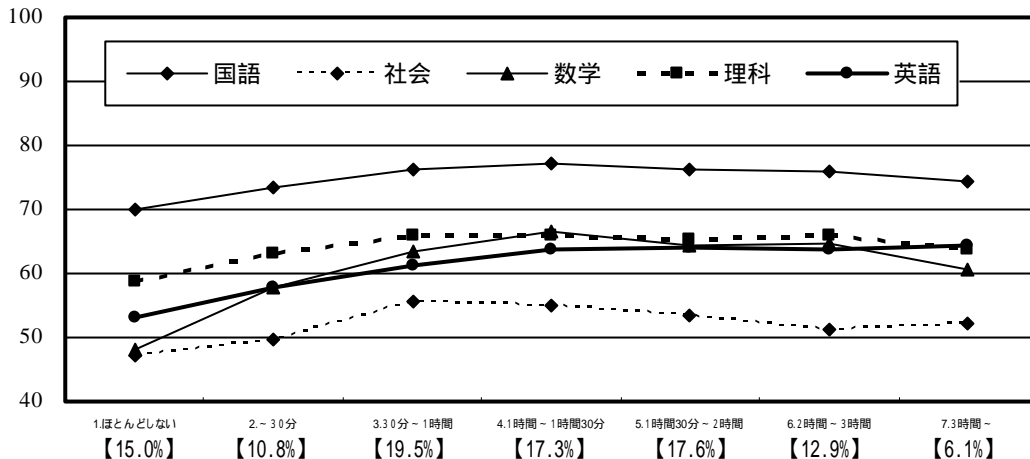
表10は、問題解決力、社会的実践力、豊かな心、自己成長力にかかわる質問項目からなっており、表にあげたすべての項目について肯定群と否定群の平均通過率の差に有意差がみられ、学習の状況との関連があると考えられる。(資料 p.61 参照)

しかし、小学校の調査結果と同様に、「自分の考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができる」の項目の肯定群は41.0%、「自分はまわりの人から認められていると思う」の肯定群は37.0%と少ない。

今後は、一人ひとりの生徒が活躍できる場面を工夫するなど、自己肯定感等をはぐくむ活動に一層取り組んでいくことが大切である。

学校以外での学習時間と各教科の平均通過率との関連

グラフ1 学校以外での学習時間と各教科の平均通過率



グラフ1から、学習時間の区分において、平均通過率の変化に比較的差がみられるのは、「ほとんどしない」と「～30分」との間である。このことは小学校での分析結果と同様の傾向を示しており、中学校においても、たとえ30分程度の短い時間であっても、家庭等での学習が効果的であることがうかがえる。

一方、学校以外での学習を「ほとんどしない」生徒が、小学校では7.3%であったのが15.0%に増加している。中学校においても家庭での学習習慣が身に付くよう、課題の与え方の工夫など個に応じたきめ細かな指導を、家庭と連携しながら行うことが大切である。

登校意欲、部活動に関する項目と各教科の平均通過率との関連

表11 登校意欲、部活動に関する項目と各教科の平均通過率

設問番号	設問	比較	割合(%)	平均通過率(%)				
				国語	社会	数学	理科	英語
問3	学校に行くのが楽しい。	肯定群	76.5	75.6	53.4	62.8	65.7	62.6
		否定群	23.5	72.5	48.7	56.0	59.3	55.7
		検定		**	**	**	**	**
問3	部活動に積極的に取り組んでいる。	肯定群	76.4	76.1	54.2	64.1	66.3	63.2
		否定群	23.4	71.0	46.3	51.7	56.8	53.7
		検定		**	**	**	**	**

「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒、「部活動に積極的に取り組んでいる」生徒ともに、76.5%、76.4%と割合が高く、否定群の生徒と平均通過率の差においても有意差がみられる。多くの生徒が生き生きと学校生活を楽しんでいる様子が見え、学習の状況にも良い影響をあたえているものと推測される。

以上、学習実態調査と学習到達状況調査との間で、平均通過率と関連の深い項目を分析するとともに、今後の学習指導等の進め方について、改善の方向性等を提案した。

生徒が確かな学力を身に付けるには、学校と家庭や地域が役割を分担しながら互いに連携することがより一層効果的と思われる。各学校においては、明らかになった課題や学力向上へのヒントを、今後の学習指導の改善に十分生かしていただきたい。